

# 副甲状腺機能低下症患者さんのための災害時マニュアル

## 副甲状腺機能低下症について

副甲状腺ホルモンは血液中のカルシウムの濃度を保つ働きをしていますが、副甲状腺ホルモンの作用が不足する（副甲状腺機能低下症）と血液中のカルシウム濃度の低下により神経や筋肉の興奮がおこり、テタニーというこの病気に典型的な症状が現れます。テタニーとは、両手指がこわばったり、顔が引きつったり、全身がしびれたりといった"てんかんの発作"に似た状態が見られるのが特徴です。また、情緒不安定になったり、いらいらしたりといった精神面での異常が見られることもあります。重症になると不整脈が起きやすくなったり、頭がボーッとする（意識が低下する）状態になったりすることがあります。

## 副甲状腺機能低下症の原因となる主な病気・状態

- 甲状腺や副甲状腺など首の手術で副甲状腺を取り除いた場合
- 自己免疫性の病気による副甲状腺機能低下症
- 首への放射線治療後に生じる副甲状腺機能低下症
- 生まれつき副甲状腺の働きが低い、あるいは副甲状腺がない場合（DiGeorge症候群やHDR症候群、副甲状腺無形成など）があります。

## 治療薬

活性型ビタミンDを補充する製剤①、カルシウムを補充する製剤②、副甲状腺ホルモン（PTH：Parathyroid hormone）を補充する注射薬③があります。

①のみあるいは①と②を組み合わせる内服されている方が多いです。

不足したPTHを補充する治療として、③が日本でも処方可能になりました（2025年11月）。

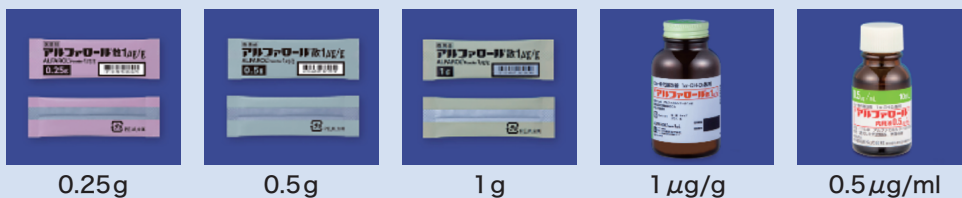
- ① **活性型ビタミンDを補充する製剤**：ビタミンDはカルシウムの吸収を高め、カルシウムを体に保つために重要なビタミンです。副甲状腺機能低下症患者さんではPTHが不足しているため活性型ビタミンD製剤として補充する必要があります。アルファロール、アルファカルシドール、ワンアルファ、カルシトリオールなどのお薬が該当します。

### アルファカルシドール製剤

#### ■ アルファロールカプセル



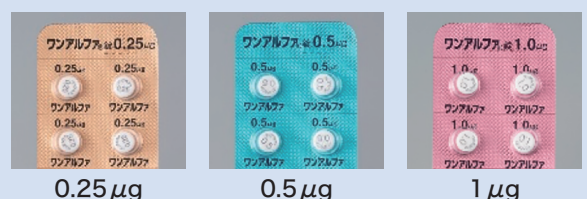
#### ■ アルファロール散・内服液



#### ■ アルファカルシドールカプセル



#### ■ ワンアルファ

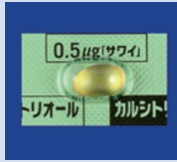


## カルシトリオール製剤

### ■カルシトリオール



0.25 µg



0.5 µg

② **カルシウムを補充する製剤**：乳酸カルシウム、塩化カルシウム、アスパラ-CA、L-アスパラギン酸Caなどの薬が該当します。

③ **PTHを補充する注射薬**：ヨビパス皮下注ペン



168 µg



294 µg



420 µg

## 災害時の備え

**副甲状腺機能低下症カード(下記参照)を、お薬手帳といっしょに携帯しておきましょう。**処方箋のコピーやお薬手帳と一緒に保管しておくことも重要です。

内服薬の場合、**災害時に持ち出すセットに数日分を、残りの数日分を普段から携帯するようにしましょう(新しく処方されたらその都度入れ替えてください)**。注射薬の場合、冷蔵庫から取り出してから2週間以内なら30°C以下で保存可能です。注射薬開始前に内服していた活性型ビタミンD製剤も持ち出せるようにしておきましょう(内服量もメモしておきましょう)。

内服や注射を中断すると、血液中のカルシウム濃度が低下し手足のしびれやけいれん、意識の低下などが起きる可能性があります。避難所では速やかに医療チームに病名を伝え、助けを求めてください。

## 副甲状腺機能低下症カード

### 緊急時のお願い

私は**副甲状腺機能低下症**で治療中です。  
私がけいれんしたり、意識を失っている時は、  
医療機関で緊急処置が必要な状態です。  
ただちに救急車(119)を呼んでください。

作成：日本内分泌学会  
日本内分泌外科学会 詳細は裏面

現在の治療内容(薬品名・用量・用法)

内服薬：  
\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

注射薬：  
\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

緊急時にはカルシウム製剤、活性型ビタミンD製剤の内服を指示されています。

症状の改善がない場合は、医療機関受診を勧められています。

私の名前  
\_\_\_\_\_

住所  
\_\_\_\_\_

電話番号  
\_\_\_\_\_

緊急連絡先(続柄)  
\_\_\_\_\_

医療機関名・連絡先  
担当医  
\_\_\_\_\_

### 副甲状腺機能低下症について

副甲状腺ホルモン(PTH)は血液中のカルシウム濃度を上昇させる働きをします。このホルモンの血液中の濃度や作用が低下すると、血中カルシウム濃度が下がり、テタニーと呼ばれる手足の筋肉のけいれんや、口の周りのしびれ感が出現します。**重症の場合は全身けいれん、てんかん様発作、咽頭けいれんによる喘息様症状**をきたすことがあります。内服薬や注射薬の中断により血中カルシウム濃度が急に低下し、命に関わることもあります。

### このカードを見た医療関係者の方へ

上記の症状がある場合は、低カルシウム血症を疑い、**迅速な血中カルシウム濃度の測定と補正**をお願いします。